

提出日： 2018年 09月 19日

派遣大会・事業名	VTG Supercup 2018
派遣期間	2018.09.05~2018.09.10
報告者	有澤重行
派遣先	Hamburg,Germany

大会概要（会場、参加国・チーム、競技方法など）

<p>Venue/edel-optics.de Arena Hamburg. Game-Schedule 07/09/2018 : CZE-Italy , Germany-Turkey 08/09/2018 : Italy(looser)-Germany(looser) , Turkey(winner)-CZE(winner)</p>

大会結果（順位）

1位トルコ 2位チェコ 3位イタリア 4位ドイツ

派遣スケジュール

1日目（ 9月 5日）：往路、自宅→福岡空港→成田空港、前泊
2日目（ 9月 6日）：加藤氏と合流、成田→ヘルシンキ→ハンブルグ、空港からはドイツ協会の送迎でホテルへ
3日目（ 9月 7日）：大会初日：ドイツ対トルコ
4日目（ 9月 8日）：大会二日目：ドイツ対イタリア
5日目（ 9月 9日）：帰路、ハンブルグ→ヘルシンキ
6日目（ 9月 10日）：ヘルシンキ→成田空港→福岡空港→自宅

大会参加審判(R)、テクニカルデリゲイト(TD)/コミッショナー(C)、インストラクター(IR)

役割	氏名	国名	年齢	役割	氏名	国名	年齢
R	Manuel mazzoni	I T A	1978	C	Ingo Holsten	G E R	1965
R	Robert Vyklicky	C E Z	1975				
R	Steve Bittner	G E R	1991				
R	Mehmet Sahin	T U R	1985				
R	Takaki Kato	J P N	1988				
R	Shigeyuki Arisawa	J P N	1976				

担当試合

試合日	カード 点数 例) CAN 85-68 NGR	会場	CC/U	パートナー (CC/U、氏名、国名)	試合雑感
07SEP	GER79-100TUR	edel-optics.de Arena	U2	Robert Vyklicky/ Manuel mazzoni	GER#17の個人技よりもTURのフィジカルが優勢のゲームだった。 ハイライト
08SEP	GER62-71ITA	edel-optics.de Arena	U2	Robert Vyklicky/ Mehmet Sahin	ITAのタイトなディフェンスにうまく攻撃が機能しないGERだった。 ハイライト

審判会議・ミーティング内容（共有事項、強調された点など）

審判会議・ミーティング共に大々的には行われず、都度コミュニケーションの中で確認がありました。
短い大会期間中に審判団で積極的にコミュニケーションを取り、お互いの信頼関係を構築する努力が必要だと思いました。

審判技術・判定基準について

ヨーロッパの各国代表のバスケットを経験できたことはとてもよかったです。そんな中、日本で実践しているベーシックな取り組みについては、概ね合理的であり、コート上で表現できる部分も多かったように実感しています。

○T のポジション・・・日本では T がレベルを下げることで、3 OR 2 やオンボール時のレフリーディフェンスのための意識を持ちますが、そのような意識を持って実践しているのは日本人審判団の方が強いと言えます。ただ、「ビッグピクチャー」の観点からいうと、コート上の選手がとても大きく、さらに色々な場所で色々なことをしているので、オートマチックに T レベルを下げることによって、視界が狭くなり判定につながらなかった場面もありました。これは自分自身コート上でアジャストすることが大事かと思いました。

○L ローテーション・・・私が今大会でメカがしっかりしていると感じたレフリーは、L のクローズダウンが基本に忠実である印象です。ローテーションを起こしたい場面「例えばセカンドチャンスでポストプレイ」や「例えばセカンドチャンス、ボールサイドでハンドオフプレイ」で、ポジションアジャストしていればローテできるのに・・・。

○声を使う・・・英語力が潤沢ではないからこそ、トラブルを起こさないために、ファウル数や、AOS or NOT、残り時間、シューター確認、声を使ってリードすることを実践してみると、コート上で余裕を持つことができたこと（＝今までより）はよかったと思う。これは昨今、「カリスマ性」という言葉に繋がっていくのではないのでしょうか。ただし、声を使うことや言葉については終わりが無いので、常に学ぶ姿勢が大事であるし、他国の文化や考え方や表現の仕方を理解するためにもオフコートの人付き合いをポジティブに考えることも大事だと思います。

○最後のフリースロー・・・バイオレーションがあると、ショット動作中でもまず笛が入ります。ショットが入るとそのまま。ショットが外れると吹いた笛が活きます。日本では、ショットが落ちた瞬間にバイオレーションを吹きます。どちらがスタンダードなのかは知りたところですが。

○ガイドライン、プレイコーリング、テンポセッティング・・・B リーグで取り組んでいることをコート上で示し、受け入れてくれたことは、私にとって収穫でした。フィジカル的にはとても激しいですが、「判定までのプロセス」については同じように手順を追って判定することが概ねできたと思います。

全体の感想、提言、他国の審判員から学んだこと、覚えた外国語など

W 杯予選前の国際大会でしたので、チームのレベルも意識も高く非常に良い経験をさせて頂きました。ドイツ、トルコ代表には NBA 現役選手も複数在籍し、普段なかなか体感しない速さ、強さ、うまさを判定することができました。それ以上に感じたことは、選手のハードワークです。ルーズボールやリバウンドに対するダイビングや、奪われたくないが故に起こるタクティカルなファウルなどがそうです。至る所でいろんなことが起きているからこそ、それぞれのエリアで判定することが大事なのだと思われました。それでも、日本で繰り返し実践しようとしているメカニクスの徹底や、ガイドラインの共有が礎となって、コート上で表現できた部分も多くあったように思います。

加藤氏と一緒に参加できたことも刺激となりました。彼が日本を背負って頑張っていますが、私も自分なりに貢献できる部分を模索し、日本バスケット界が少しでも盛り上げて行きたいと思います。

ドイツでは我々を大切に受け入れて頂きました。日本とドイツの両国バスケットボール協会の今後のパートナーシップがさらに発展して、盛んな交流が継続することを願っております。

このようなチャンス頂けたこと、今まで我々を育ててくれた全ての方に感謝して、さらに成長していけるように頑張っていきたいと思っています。

写真



初戦：ドイツ対トルコ
審判左から ITA、CHZ、JPN



審判団でランチ



二日目：ドイツ対イタリア
ドイツ No.17PG のシュレーダー



優勝はトルコ、
MVP はトルコ NO.6 オスマン。